



館山市議会議員

第22号 令和7年1月19日発行

鈴木ひとみ市政報告

ごあいさつ



明けましておめでとうございます。
 去年は、能登半島地震に始まり、災害、戦争、凶悪犯罪と不穏なニュースの多い年でした。今年、明るい兆しが見える年であって欲しいと願うものの、防災対策、防犯対策は普段から心がけるべきものと考えます。

一方、ユニセフによると紛争地域に暮らす子どもは4億7300万人以上(世界の子どもの6人に1人以上)です。悲惨な子どもたちの様子が日々報道されています。

世界中に平和な日々が1日も早く訪れることを祈ります。

令和6年12月市議会定例会 一般通告質問から

市長公約「若者が戻って来る、戻って来たい、移住したいと思えるまちづくり」のために

就任後行ってきたこと、これから行うことはなんですか？



市長回答

「高校生がまちづくりにかかわるよう『安房六軒高校』や次期総合計画策定委員への高校生の参加を進めている。また、サテライトオフィス誘致事業や様々な起業セミナー、起業支援など新たな雇用創出に努めてきた。また、今後は必要な財源を確保するために、『観光』を原動力に地域経済の活性化を図ると同時に、企業誘致や地域に根ざした新規ビジネスの創出など、地域経済の振興に向けた取組を着実に進めたい。」という市長の回答でした。

所感

「人手不足」により、市内の様々な企業が事業を縮小したり、継続をあきらめている現状があります。多くの若者が就職先に都会を選ぶ理由として、給与や便利さ、子育て環境があげられます。市内企業が「稼ぐ力」をつけ、より好条件で若者を雇用できるよう、地域産業の活性化、事業の効率化を進める必要があります。

市が積極的にバックアップを行い、強い地域産業を育てていくことが重要です。

